

ウッディタウンのなかまたち～ニュータウンの森と水辺と庭先で

上村哲三・中田一真（ごもくやさん）

1. はじめに

わたしたちの街・ウッディタウン。1987年の街開きからもう30年以上が経ちました。かつて里山が広がっていたこの地は、ニュータウン開発を経て、わたしたちの街へと変わりました。今では人口35,000人、世帯数13,000を超え、三田市人口の30%以上がこの街で暮らしています。（2020年3月現在）

里山管理のボランティアグループ・ごもくやさんは、2010年の発足以来、中央公園を中心に、この街に残る里山林の除間伐を行ってきました。

ここが里山だった頃から棲む生き物と、開発の後に入ってきた生き物とが入り乱れて暮らす街・ウッディタウン。ごもくやさんの活動と、生き物たちのこの10年の出来事を振り返ります。

2. 観察記録

(1) ササユリ開花状況

ごもくやさんでは、森の手入れをすることにより、中央公園のササユリ保護・増殖活動に取り組んで来ました。2011年には開花株数わずか35株だったものが、2019年には341株の開花を記録しているほか、一枚葉（1年目の株）は2020年に2000株を超えました。

他にも除間伐後、キンラン、ギンラン、シュンラン、ショウジョウバカマなど様々な花が咲き始めています。



左上：ササユリ、左下：キンラン、右：ギンラン



*2012, 2013 の全記録、2016 の一枚葉、本葉は欠測

(2) 自動カメラによる生き物調査

中央公園とウッディタウン周縁の森に仕掛けた自動カメラには、この10年で15種の哺乳類、57種の鳥類が記録されました。

(3) 変わりゆく環境

① ナラ枯れ拡大

近年、三田周辺もカシノナガキクイムシ（略称カシナガ）によるナラ枯れが進んでおり、ウッディタウンのコナラ、アベマキ、アラカシなども大木が毎夏枯れています。カシナガの穿孔から出る樹液には昆虫だけでなく、哺乳類のテンまでやってくるのが分かりました。カシナガが森の中でどのような役割を果たしているのか、観察を続けていきます。

② 外来種天国

ウシガエル、ブルーギル、アメリカザリガニ、アライグマ、オオキンケイギク、ヒメジョオン・・・開発された水辺を中心に、外来種の侵入はとどまるところを知りません。

③ 姿を消す在来種

里山環境の消失、縮小、外来種の侵入などにより、在来のヒキガエル、オオヨシキリ、イシガメ、ノウサギなどは、ほとんど姿を見ることがなくなりました。

④ 里山では

ニュータウンの外に出れば、利用されなくなった里山が藪と化し、シカやイノシシなど奥山の獣たちがすぐそこまで来ています。中央公園でも2017年11月に一度だけイノシシが記録されました。

3. おわりに

生物多様性が大切だと言われています。しかし、里山の生物多様性は「大切」という言葉だけでは維持できません。木を伐り、草を刈り、変わらぬ環境をヒトが整え続けてこそ、維持できる状態なのです。ごもくやさんはこれからも、森の手入れを続けていきます。



上段左から、カシノナガキクイムシ、テン、ブルーギル 下段左から、アライグマ、ヒキガエル、イノシシ



ごもくやさんでは、設立10周年を記念して、小冊子「ウッディタウンのなかまたち ニュータウンの森と水辺と庭先で」を発行しました（A5版カラー40頁）。ウッディタウンの四季折々の生き物たちと、この10年間の森の出来事を写真と文章でつづります。この冊子は小学校の環境学習や中央公園の自然観察会で活用しています。三田市中央公園、駒ヶ谷運動公園管理事務所にて1部400円（税込）で販売中。郵送販売は中央公園管理事務所までお問合せ下さい。（電話：079-565-4881）